筆記課題解答及び解説

訓練課題（解答及び解説）

「木工手工具の取扱い」

解答

筆記課題「木工手工具の取扱い」

1問2.5点

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 入所年月 | 番号 | 氏名 | 合計点 | 評価判定 |
| 平成　　年　　月入所 |  |  | ／100 |  |

評価判定基準　Ａ：80点以上 「到達水準を十分に上回った」

Ｂ：60点以上80点未満 「到達水準に達した」

Ｃ：60点未満 「到達水準に達しなかった」

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ○ | ○ | × | ○ | × |
| 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| ○ | × | ○ | ○ | ○ |
| 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| ○ | ○ | × | ○ | ○ |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| ○ | ○ | × | × | ○ |
| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
| × | × | ○ | ○ | × |
| 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
| × | × | ○ | ○ | × |
| 31 | 32 | 33 | 34 | 35 |
| ○ | ○ | ○ | ○ | × |
| 36 | 37 | 38 | 39 | 40 |
| ○ | × | × | × | ○ |

筆記課題「木工手工具の取扱い」　解説

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 設問No | 解答 | 解説 |
| 1 | ○ | 設問のとおりである。 |
| 2 | ○ | 設問のとおりである。 |
| 3 | × | 100mmを示す。  裏目の100mmは、表目では100mm×√2＝141.42 |
| 4 | ○ | 丸目で円の直径を測定すると、円周の長さが表示される。 |
| 5 | × | 裏押しをする際は、金砥と金剛砂を使用する。中砥石･仕上砥石は使用しない。 |
| 6 | ○ | 設問のとおりである。 |
| 7 | × | べた裏という。　裏切れは図の状態のものである。 |
| 8 | ○ | 設問のとおりである。 |
| 9 | ○ | 設問のとおりである。 |
| 10 | ○ | 砥石に水を含ませておき、摩擦による熱の発生を防ぐとよい。また、刃物に熱が入ると、刃の焼きが戻ってしまい、切れ味は落ちたりしてしまうのを防ぐ役割もある。 |
| 11 | ○ | 砥石の一部分を使用すると、砥石の凹凸が部分的に出てしまう。 |
| 12 | ○ | かんなの裏押しをする際には、一般に、金砥と金剛砂を使用する。 |
| 13 | × | 素手で砥石に水を注ぎ、かんな刃には水をもっていかないようにする。 |
| 14 | ○ | かんな刃に裏金をつける事により、逆目をしている。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 設問No | 解答 | 解説 |
| 15 | ○ | 向こうまちのみ＞追入れのみ＞薄のみの順に角度を大きく取る。  のみの刃先角度   |  |  | | --- | --- | | のみの種類 | 刃先角度 | | 向こうまちのみ | 30～35°ぐらい | | 追入れのみ | 25～35°ぐらい | | 薄のみ | 20～25°ぐらい | |
| 16 | ○ | 設問のとおりである。 |
| 17 | ○ | 設問のとおりである。 |
| 18 | × | 通し穴は、片面からでなく、両面から掘り進める。 |
| 19 | × | のこぎりは、柄尻を握り、柄頭は、かるく握る。 |
| 20 | ○ | のこぎりは、引くときに切削される。 |
| 21 | × | 図の状況の場合は、木材の繊維を切断するので、両刃のこぎりの横引きを使う。 |
| 22 | × | 逆目である。    順目：逆目になる心配はない    柾目：木端柾目でも面が順目とはかぎらない。逆目になる場合もある    逆目と順目が混じっている木目 |
| 23 | ○ | 左図は、2/10こう配を表している。 |
| 24 | ○ | 設問のとおりである。 |
| 25 | × | 勝手墨のことである。  加工墨とは、加工箇所を示す墨線のことで、各部分に図面の寸法をとる（けがく）ことである。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 設問No | 解答 | 解説 |
| 26 | × | 刃先に左手があるので、危険であり、力があまって材料を突き抜ける。 |
| 27 | × | 刃先に左手があること、また、材料が固定されず不安定なので、危険である。刃先の前には絶対に手を置かない。 |
| 28 | ○ | 材料を足で固定して、のみの刃先を下向きにして作業する。 |
| 29 | ○ | 当て止めで材料が滑らず安定する。 |
| 30 | × | 組接ぎは2枚組、3枚組、5枚組と数がおおいほど丈夫で外観もよくなり、2枚組みをのぞいては奇数枚となる。 |
| 31 | ○ | 設問のとおりである。また、木殺しは木材の弾力性を利用して行う方法で木材の繊維質が破壊しない程度に軽くたたくことで、胴付きをよく密着させたりするときに行う。 |
| 32 | ○ | 設問のとおりである。 |
| 33 | ○ | 設問のとおりである。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 設問No | 解答 | 解説 |
| 34 | ○ | 設問のとおりである。  ←自由定規使用例 |
| 35 | × | あり組み継ぎの男木・女木は、下図のような形状になる。 |
| 36 | ○ | 縦引きのこぎりは、木材を繊維方向に切るもので、歯形は、のみの形をしており、下刃と上刃からなっている。のみの形の歯がひっかくように溝を掘って、繊維を断ち切る作用をする。 |
| 37 | × | 木表である。  木裏  木表  木口  木端 |
| 38 | × | 木材（板材）は、乾燥すると、木表が凹に反る性質がある。  図は、木表側に凸に反っているので誤りである。 |
| 39 | × | ①の台頭を叩いて抜くとよい。ただし、かんな台が割れることを防ぐため、中央部分は避けて叩く。 |
| 40 | ○ | ①の部分を台頭　②の部分を台尻とよぶ。 |